

## ここまでできる、住民主導の生涯学習プログラム！！

～横浜市緑区における「講座づくりワークショップ」に参画して～

崎山みゆき

### 1. 横浜市緑区の区民主導型「生涯学習フォーラム」とは何か？

昨年の桜美林大学院における生涯学習論のゼミで、瀬沼教授から興味深い話を伺った。横浜市では、「生涯学習講座は、行政がアウトライン（日程やカリキュラム、講師依頼など）をつくるものである。」という風習を1978年にいち早く改善したというのである。市内18区の全てに学級講座を委託することにしたそうである。現在の予算額は年間200万円程度であり、1講座あたりは約10万円。1講座といっても5回シリーズで開催されるものなどもあるので、中には1回当たりの予算が2万円ほどになってしまうものもある。エーッ？それでできるのですか？と驚く私に、いやぁ実際やっているんだからなぁ、できるんだよ。と、先生は話してくださったが、実はそのあとにタネ明かしがあった。住民の方々が運営委員会を構成しており、企画・運営などを全て担当している。講師を探すこともすれば、イベントの下見や会場の手配、PR（チラシの作成、口コミなど）も自分たちです。まさに手作りによる経費削減である。

中でも講師に関しては随分と骨を折っているとのことで、運営委員や住民でその道に長けている人が務める場合もある。講座の企画方法は、やりたいテーマを区民の方々が掲げ、企画書を作成して区に申請をし、審査に通れば開講の運びとなる。通常1学級の参加者は30人程度で、参加者募集は市の広報やタウン誌、チラシを活用する。

一言で言うと「この指とまれ方式」である。緑区に関して言うと、平成10年度には「ふるさと文学散歩（全5回）」「郷土の仏教を学ぶ（全6回）」「男の備学（全5回、定年後の男性を対象。手料理や地域の歴史を学ぶ）」「だめなママでもいいじゃない（全6回、保育あり）」など、実に多岐にとんだ取り組みが行われた。自分たちがやりたいテーマということで、学級仲間の結束も堅く、3年継続しているところもある。

### 2. 「講座づくりワークショップ」という、新しい試みを考え出した理由

ところで、この緑区の指導員と運営委員の方々が新しいアイデアを出した。まずテーマありき、から、まずメンバーありきにしようという斬新なものである。現状は、確かに区と各グループの区民とのコミュニケーションはとれている。しかし、グループ間のコミュニケーションはどうかというと不十分である。どんな点が不十分かということ、お互いの活動の情報公開がされていない。「どんなグループがあって、どんな活動をしているのだろう、私も入れるかしら？」と感じている区民がとても多い。生涯学習グループに関心はあるが、あらかじめテーマが決められているので自分の望んだものがない場合は蚊帳の外になってしまうというケースもある。

そこで緑区生涯学習支援係の沓掛恒雄氏、寺田芳枝氏と区民運営委員の方々が出したアイデアが、「先ずとにかく、生涯学習に関心のある方に集まっていただく。そして次にみんなテーマを決めよう。」というものであった。この指止まれ方式のワンステップ前の段階、テーマづくりから取り組んでみようと言うのである。この指をどの指にするのかを決めるところから、という考えである。

### 3. 現場レポート

応募人員は定員を遥かに越え、抽選が大変だったと伺った。参加者も20代から60代後半までと幅広かった。20代30代の女性が参加できたのは保育があったからだと考えられる。又、ぜひこのワークショップを参考にして地域活動に活かしたいと、座間市の「生涯現役実践の会」という市民サークルからも特別参加があった。カリキュラムと募集要項は下記の通りである。全体の流れは、緑区役所の担当者と運営委員の方々、瀬沼教授、私でディスカッションを重ねて決めた。

#### 緑区学習フォーラム「学級をつくろう」

回

日 程

内 容

1

1月18日(月)

みんなが主役の生涯学級 講演

2

1月25日(月)

あなたのやりたいこと探し ワークショップ

意見を出し合いながら実際に生涯学習講座をつくってみましょう

3

2月 1日(月)

4

2月 8日(月)

5

2月15日(月)

まとめ

いくつ学級が立ち上がるかな？

会場 地区センター  
時間 10時～12時(2時間)  
定員 30名(できるだけ全回参加できる方)  
参加費 無料  
保育 未就園児10名(5回、500円)

第1回目では、基調講演が瀬沼教授からされた。生涯学習とは私達にとって大変身近なものであり、楽しいものである。故に自分たちで積極的に創り上げてゆこうという内容は、わかりやすくするためになったと大変好評であった。

第2回目から4回目はいよいよワークショップ形式での生涯学級づくりである。

私は極力グループワークにおけるファシリテーター(促進する人)に徹し、参加者の意見がしやすい雰囲気を作った。ファシリテーターの役目として、話し合いの時に大切なこととして、相手の意見を否定しない、最初からできないと決めつけないということを、いつも参加者に対して発信することも大切である。

手法に関しては、カードワークのKJ法を簡略にしたようなオリジナルで、机の配置はグループで話しがしやすいように、島にした。グループワークの進め方については、機会があったらぜひとも事例をもとにご紹介したいと考えている。

第2回目...昨年度に実施された生涯学級の紹介と、みんなのやりたいこと探しあらかじめ参加者を6人グループに分けておく。各グループでは、自分のやりたいことを付箋紙に何でも自由に書いていただく。次に、全員のもを似たもの同志グルーピングし、模造紙に貼り付ける。模造紙のあいているところに、カードに書き足りなかった意見を書いても良い。

第3回目...取り組みたいテーマに集まれ!

第2回目ですたものを、運営委員があらかじめ6つに分けておく。運営委員に全てお任せにしたのは、彼らが今までのサークル活動を理解しているので、どのように分類したら良いのかを一番良く知っているからである。結果は、1.歴史と文学、2.自然とウォーキング、3.遊びと創作、4.健康・スポーツ、5.料理、6.ガーデニングとなった。これらのテーマの中で各自が関心あるものところに集まるのだが、当然ばらつきがでた。

歴史・文学は中高年に、ガーデニングは女性にそれぞれ人気があった。次に、もう一度グループで話し合ってもらいメンバーのやりたいことの再確認をしていただいた。やっぱり自分の考えとは違うな...という方は、グループを移動して良いという再度のチャンスタイムを設定したのである。再確認の大切について、私は「歴史を歩く」というあるサークルを例にこんな話しをした。

このサークルでは最初は実にたくさんの方が集まった。しかし、1年ほどすると退会者が急に増えた。なぜか?活動内容を聞くと、歴史の学習に重きがかかって歩くことはこの次だという。実は、メンバーの中には「歩く」という言葉にひかれて健康のために加入した

方がかなりいた。しかし結果として、物足りなくなってきた退会し始めたのだ。

このようなことがないように、テーマの表面だけを追わずにじっくりと目的を確認していただきたいと話した。すると、スポーツ・健康のグループがもっと幅広く学習メニューを広げたいというメンバーの中の潜在的ニーズを発見し、「学習アラカルト」として様々な分野のものを取り込んだメニューを作り始めた。よく見ていると、このグループは言い争うこともなく始終和やかに、しかしながら活発に意見を出し合っていた。料理グループは、集まった方たちの任意のもとに解散した。

#### 第4回目...プログラムをつくる

具体的なプログラムづくりと、中間発表。ここでも、発表後に関心ある他のグループに移っても良いということにし、あくまでも「自分のやりたいこと」を尊重した。

#### 第5回目...プログラム発表と講評

できあがったプログラムを模造紙にまとめて、グループ別に発表。発表者はひとりでも、全員でも良い。あくまでも「みなさんで、お決めください。」住み良い地域づくりと異世代交流を基本理念としていたところが多かった。その後、瀬沼教授から、本当の意味での住民主導で、素晴らしかったという講評をいただき、会場に笑顔があふれ、講座は無事終了した。なお、ここでつくられ企画は、運営委員会で審議されていくつかが来年度実施されることになっている。

## 4. 今後の課題

今回の企画は成功といえると思う。取り組むテーマを限定せず、先ず人を集めるという方法が効をなし、いつもと違った幅広い層の集客ができた。又、生涯学習が身近で楽しいことを、住民の方々に体験していただけた。楽しさこそ住民主導の源であろう。

そしてもう1つ大切なことがある。参加者が話し合える場をつくったということである。参加者の感想文の中にも、たくさんの方と話せて良かったというものが実にたくさんあった。「自分の意見や感想が、安心して話せる場づくり」である。生涯学習の基本は、自分のやりたい学習である。

やりたいことを見つけている途中の人は、自分を語り人の話を聞く中で方向性が見えてくる。既に見つかっている人は、新しい情報を得たり、他の人に教えることでますます自分が高まる。緑区に関しては、今回この「場の提供」に関しては一歩前進した。今後は、生涯学習1年生とも言える、楽しみを見いだし始めた方々を実際にどのように育ててゆくかが課題であろう。

そのためには、ぜひとも今回企画された講座の多くが実施され、運営にも受講された方々が携わっていただきたいと願っている。又、私自身、今後このような取り組みを試みたいという地域や学校などに関して今回の体験を活用し、できる限りお手伝いをしたい。